

着衣着火防止のポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろの奥に、物を置かないようにしましょう。
- こんろのまわりは、整理整頓をしましょう。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書を、よく読んで正しく使いましょう。
- 金属製湯たんぽは、直接火にかけると危険です。



防災品を使いましょう!

火が接しても着火しにくい防災品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。

(例)



このラベルが目印!

*一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです!!

もし着衣に火が着いてしまったら..

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、
119番通報を行いましょう!!

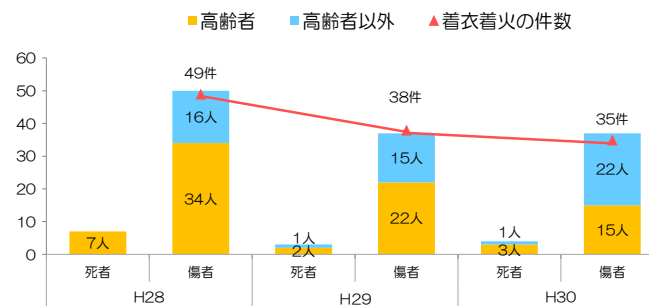
STOP! 着衣着火

東京消防庁

着衣着火による高齢者の死者が多発!

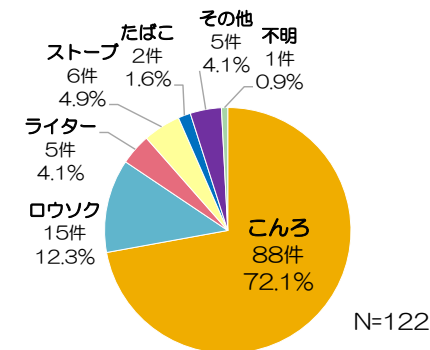
着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。平成30年の着衣着火による火災件数は35件発生し、昨年と比較すると3件減少しています。

また、平成30年の着衣着火による死者数は4人と昨年と比較すると1人増加しています。



着衣着火件数・死者数・傷者数 (H28~H30 住宅内 自損は除く)

着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災が、約7割を占めています。



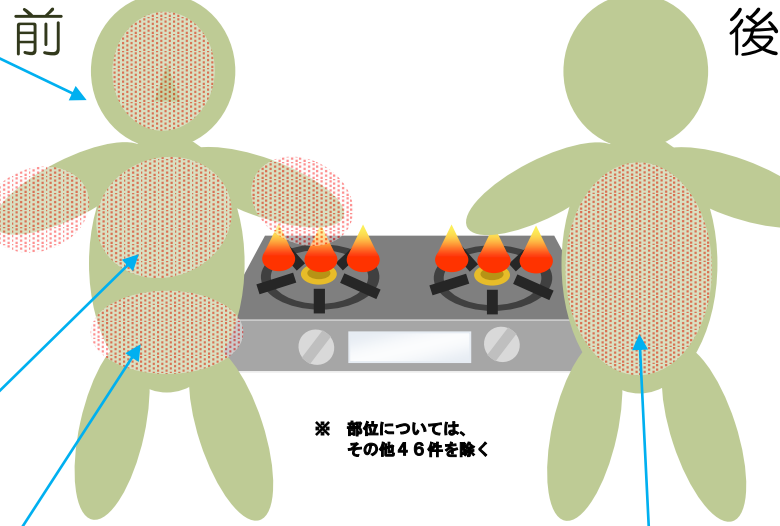
N=122

出火原因別着衣着火件数 (H28~H30 住宅内 自損は除く)

→ こんろによる火災の事例は、次ページをご覧ください。

こんろによる着衣着火

過去3年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。(平成28~30年 全88件 死者10人 傷者88人)



※ 部位については、
その他46件を除く

顔 (3人)

女性60代は、自宅の台所で調理していた際に、首に巻いたスカーフがこんろの火に接触、着火し、受傷した(重篤)。

手、腕 (27人)

- ① 女性50代は、こんろで調理をしていた際に、調理台の奥に落としてしまったものを取るため、手を伸ばしたところワンピースの袖に引火し、受傷した(中等症)。
- ② 女性80代は、ヤカンでお湯を沸かしていた際に、パジャマの袖がこんろの火に接触、着火し、受傷した(軽症)。

胸部 (10人)

女性40代は、調理中にガステーブルの奥の調味料を取るため、手を伸ばした際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

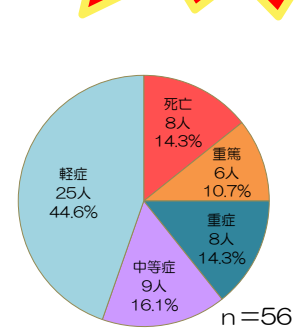
腹部 (2人)

女性40代は、調理中に壁にかけてある調理器具を取ろうと手を伸ばした際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

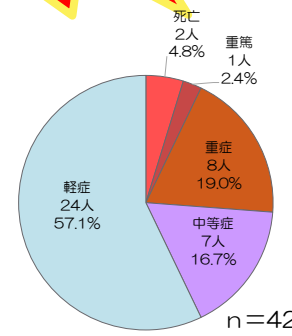
背部 (13人)

男性60代は、調理している際に、冷蔵庫を開けるため、こんろに背を向けた際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

高齢者は素早い消火ができず、重症化してしまう場合が多くあります。



受傷程度別死傷者数 (65歳以上)



受傷程度別死傷者数 (65歳未満)

こんろによる着衣着火を性別で見ると、女性は男性の2倍以上の人数で発生しています。また、年齢では、70代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。

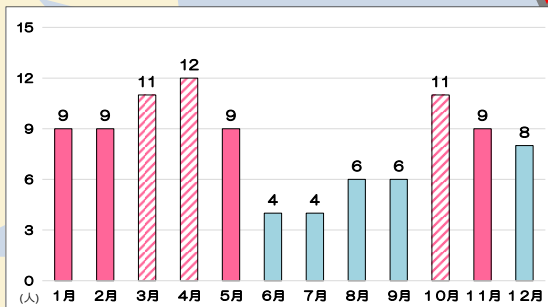
女性に多い

こんろによる着衣着火は、長そでを着るような季節に発生しており、その中でも4月が最も多く発生しています。

生活・服装の変化



【性別・年齢】



【発生月】

着衣着火防止のポイントは裏面をチェック!

